

[5568/5F-190-005]

Ver.14

5.免疫学的検査 >> 5F.ウイルス感染症検査>>5F190 単純ヘルペスウイルス抗体 IgM [EIA][髄液]

単純ヘルペスウイルス抗体 IgM

[EIA][髄液]

herpes simplex virus, viral antibody IgM

連絡先 3764

患者同意について

検査結果に影響を与える臨床情報

オーダーボタン名(検体)

5568

001

単純ヘルペスIgM[EIA]

検査予約

至急オーダー

不可

検査オーダーに関する注意事項

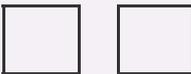
患者の検査前準備

検体採取のタイミング

ラベル見本(検体)(単項目オーダー時)

キョウダ イテスト

注 80 外



カンセンウイルス



リコール

中検外1

*_*_*_*_*-27001

7

2ml

**_*_*_*_*_*

ラベル見本(細菌)(単項目オーダー時)

採取容器・検査材料

[5568/5F-190-005]

Ver.14

5.免疫学的検査 >> 5F.ウイルス感染症検査>>5F190 単純ヘルペスウイルス抗体 IgM [EIA][髄液]

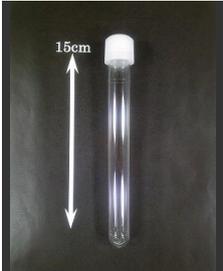
単純ヘルペスウイルス抗体 IgM

[EIA][髄液]

herpes simplex virus, viral antibody IgM

連絡先 3764

01	フ	プレイン		
採取材料	髄液	採取量	2 mL	
測定材料		測定必要量	0.3 mL	



採取容器について

検体採取について

採取後検体の取扱い

検体搬送について

採取検体の保存条件

	保存検体種	優先 保存条件	保存条件1		保存条件2		保存条件3	
			温度	安定性	温度	安定性	温度	安定性
01	髄液	保存条件1	冷蔵	4 週				

受入不可基準

溶血	検体凝固	強乳び	採取量過不足	採取容器違い
尿材料違い	冷蔵保存なし	遮光保存なし	開栓	黄疸

検査に要する時間(生理検査)

再検査・追加検査の対応可能日数

検体到着日から60日間（検体量ある場合のみ）

（分析物の安定性については「採取検体の保存条件」を参照）

検体採取に関する注意事項・検査の実施に関する注意事項

検査機器

&nbsp;

[5568/5F-190-005]

Ver.14

5.免疫学的検査 >> 5F.ウイルス感染症検査>>5F190 単純ヘルペスウイルス抗体 IgM [EIA][髄液]

単純ヘルペスウイルス抗体 IgM

[EIA][髄液]

herpes simplex virus, viral antibody IgM

連絡先 3764

検査所要日数	2～4日
検査部門・委託先	外部委託 (LSIメディエンス)
検査部門(平日時間内)	
検査部門(時間外・休日)	
検査結果報告について	
基準値設定材料・検査方法	
基準値設定材料	髄液
検査方法	酵素免疫測定法 (EIA)

生物学的基準範囲

		男性	女性	単位
00	index	0.80 未満	0.80 未満	(単位なし)
00	判定	陰性(-)	陰性(-)	(定性・判定)

基準値情報

緊急異常値

電話連絡対応

臨床的意義

単純ヘルペスウイルス (HSV) は、DNAウイルスで、1型 (HSV-1) と2型 (HSV-2) の2型に分けられている。HSVの特徴は、初感染後体内に持続感染 (潜伏感染) することである。初感染の多くは不顕性感染で、顕性、不顕性を問わず初感染後は三叉神経節、仙骨神経節に潜伏感染し、疲労、妊娠、怪我、熱性疾患その他の原因によってウイルスが再活性化されると、口唇周辺や陰部など特定の皮膚部位に水疱を生じる (回帰性ヘルペス)。

HSV感染症の診断法には、ウイルスやウイルス抗原を直接証明する抗原検査と血清抗体の上昇によって診断する抗体検査とがある。抗原検出法は、ウイルス分離をはじめ、病変部より得た細胞中のHSV抗原を蛍光抗体法 (FA) を用いて証明したり、モノクローナル抗体を用いたシェル・バイアル法がありこの方法は特異性が高い。また遺伝子検査として*in situ*ハイブリダイゼーション、PCRなどによる方法があり、ヘルペス脳炎、新生児ヘルペス感染症などの早期治療により救命率を上げることが期待されている。

抗HSV抗体の測定法として、EIA法は感度が高くまたIgG、IgM抗体の分別測定も可能である。中和法はEIA法に比べ感度的には落ちるが特異性は高い。また中枢神経疾患の場合EIA法のIgG捕捉法が有用である。血清学的検査は、主として初感染の診断に有用であるが、中枢

[5568/5F-190-005]

Ver.14

5.免疫学的検査 >> 5F.ウイルス感染症検査>>5F190 単純ヘルペスウイルス抗体 IgM [EIA][髄液]

単純ヘルペスウイルス抗体 IgM

[EIA][髄液]

herpes simplex virus, viral antibody IgM

連絡先 3764

神経感染の診断, 感染HSVの型別推定に応用されている。

異常値を示す病態・疾患

肝炎, 脳炎, 脊髄炎, 性器ヘルペス, 神経炎, 口唇ヘルペス, ヘルペス性食道炎, ヘルペス性角結膜炎, 流産, 死産, 奇形, 新生児ヘルペス

参考文献

山辺晴美ほか. EIA価によるヘルペスウイルス感染症の血清学的診断法に関する検討. 医学と薬学. 1991,

厚生省監修: 微生物検査必携ウイルス・クラミジア・リケッチア検査第3版第1分冊48～61 1987

エスアールエル 検査要項

JLAC10

分析物	5F190	単純ヘルペスウイルス
識別	1432	ウイルス抗体-IgM
材料	041	髄液
測定法	000	

変更履歴

Ver	文書更新日	変更適用日	内容
1	2008/04/01	2008/04/01～	制定
2	2014/01/16	2013/12/06～	検査試薬変更(非特異を軽減した改良試薬)
3	2015/04/24	2015/04/01～	外部委託先変更(SRL⇒LSIM)(検査内容の変更点なし)
4	2016/04/25	2016/04/01～	平成28年度診療報酬改定
5	2018/04/06	2018/04/01～	平成30年度診療報酬改定
6	2018/11/27	2018/11/27～	判定基準を追記(WEBのみ)
7	2020/04/02	2020/04/01～	令和2年度診療報酬改定
8	2021/07/02	2021/07/02～	検体保存条件を変更

[5568/5F-190-005]

Ver.14

5.免疫学的検査 >> 5F.ウイルス感染症検査>>5F190 単純ヘルペスウイルス抗体 IgM [EIA][髄液]

単純ヘルペスウイルス抗体 IgM

[EIA][髄液]

herpes simplex virus, viral antibody IgM

連絡先 3764

9	2022/03/09	2021/12/09～	採取名称部分に検体搬送先を印字
10	2022/03/11	2021/12/15～	結果表記変更（数値と判定とを分離）
11	2022/08/01	2022/04/01～	令和4年度診療報酬改定
12	2022/12/01	2022/12/01～	受入不可基準などについて全面改訂
13	2023/12/21	2023/12/21～	必要検体量を追記
14	2024/06/04	2024/06/01～	令和6年度診療報酬改定